

研究テーマ	造形的なよさや美しさなどを主体的に感じ取り味わう鑑賞の能力を育成する美術科指導法の研究 —中学校1学年「雪中の狩人」の鑑賞において、作品を探究する活動を通して—
-------	---

北茨城市立中郷中学校 教諭

I 研究テーマについて

中学校学習指導要領では、第1学年B鑑賞(1)ア「造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫、美と機能性の調和、生活における美術の働きなどを感じ取り、作品などに対する思いや考えを説明し合うなどして、対象の見方や感じ方を広げること」と定めている。

本学級の生徒29人を対象に、美術についての意識調査アンケートを行った。「自分の考えや感じたことを他の人に伝えることができますか」という質問に対して、「できる」と答えた生徒は7人、「どちらかというところできる」と答えた生徒は12人、「どちらかというところできない」と答えた生徒は8人、「できない」と答えた生徒は2人おり、十分に自分の考えを相手に説明することができないと感じている生徒がいるという結果が浮かび上がった。

また、「自分なりの価値意識をもって作品を見ていますか」という質問に対して、「できる」と答えた生徒は5人、「どちらかというところできる」と答えた生徒は8人、「どちらかというところできない」と答えた生徒は13人、「できない」と答えた生徒は3人おり、過半数以上の生徒が自分なりの価値意識をもって作品と対峙することができていないことが分かった。

そのような実態からは、これまでに制作をする過程で考えたことや作品を見て感じたことを自分でまとめる活動は行ってきたが、他者に伝える活動はあまり行えていないということと、自分なりの価値意識をもって作品と対峙する力を育むことができていないという課題が見えてきた。

そこで、適切な言語活動を設定し、作品を探究する手立てを工夫することで、作品の理解や見方を広げ、造形的なよさや美しさなどを主体的に感じ取り味わう鑑賞の能力を育成することができると考え、本主題を設定した。絵画作品の鑑賞において、作品の探究活動や描かれている場面を想像する活動を行い、個人に留まらずに班や学級全体で意見を共有、検討する場を設定することで、造形的なよさや美しさなどを主体的に感じ取り味わう能力の育成を図る。

課題解決に迫る具体的な手当てとして、以下2点を設定する。

1 探究活動による視点設定の工夫

主体的な鑑賞活動になるよう、前半にはクイズ形式に沿って作品を読み解く探究活動を設定した。その作品を取り扱うにあたって生徒に注目してほしい部分をクイズにすることで、生徒たちが自然にその部分を意識して鑑賞することができるようにすることをねらいとしている。クイズによって鑑賞時の明確な視点を生徒に提示することで、漠然と作品を鑑賞するのではなく、ねらいをもって活動ができるようにする。また、クイズを通して全体から細部へと徐々に目を向けさせることで、生徒がより深く作品の探究に入り込むことができるように促す。

視点を提示するクイズとして、「場面は狩りの前か後か」と「描かれているのは一日の中のいつの時間帯か」の二つを用意した。「場面は狩りの前か後か」という問いについて考えるためには、作品の中心となる狩人と猟犬に目をむけて鑑賞する必要がある。作品の主題に迫る鑑賞の視点を提示することをねらっている。「描かれているのは一日の中のいつの時間帯か」という問いについて考えるためには、風景の描写や街の様子に目を向ける必要がある。より細部へと鑑賞の視点を向けることができるようにすることがねらいである。

2 作品中の声や音、擬音語、場面を想像する活動の工夫

細部にも目を向け、生徒がより一層深く作品を理解することができるよう、作品から想像できる声

や音を想像する活動を設定した。声や音を想像するためには、作品から読み取ったことと自分自身の経験とを重ねて鑑賞する必要が出てくる。自分の生活と結びつけることで、より主体的な鑑賞活動になることをねらっている。また、想像時の手掛かりとなるものを探すために、細部にも目を向ける鑑賞活動になる。

II 研究の実際

1 題材名 絵が語る物語 ～雪中の狩人～

2 題材の目標

- 作品の探究活動に関心を持ち、造形的なよさや美しさを感じ取ろうとする。
(美術への関心意欲態度)
- 造形的なよさや美しさや表現の工夫などを感じ取り、自分の価値意識をもって作品を味わう。
(鑑賞の能力)

3 題材について

(1) 生徒の実態

本校第1学年4組は、何事にも熱心に取り組むことができる生徒が多い。しかし、自分から主体的に活動に取り組むことができたと感じている生徒は71%に留まる。自分の考えや思いをまとめ、他者に伝えるということに抵抗を抱く生徒が多い。美術の授業においても、鑑賞対象を見て自分が感じたことを言語化することや、それらを他者に伝えて共有することに対して苦手意識を抱いている生徒が多く見られる。

(2) 題材観

本題材は、中学校学習指導要領 美術 第1学年B鑑賞(1)ア「造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫、美と機能性の調和、生活における美術の働きなどを感じ取り、作品などに対する思いや考えを説明し合うなどして、対象の見方や感じ方を広げること。」を受け、作品の探究活動や声や音を想像する活動、意見を共有する活動を通して、作品の理解や見方を広げることができている。作品の探究活動や描かれている場面を想像する活動において、個人に留まらずに班や学級全体で意見を共有、検討する場をもつ。出た意見や見方に対して、なぜそのように考えることができるのかという理由も思考し、他者に伝えるよう指導する。伝えるべき視点を提示することで、作品の理解や見方を広げ、形的なよさや美しさなどを主体的に感じ取り味わう鑑賞の能力を育成する。

(3) 指導観

生徒の実態から、主体的な作品の探究活動になるように初めはクイズ形式をとり、全体から細部へと徐々に目を向けさせることで、生徒がより深く作品の探究に入り込むことが出来るように促す。また、作品から想像できる声や音を想像する活動を通し、生徒がより一層深く作品を理解することを目指す。そして、班や学級全体で意見を共有する機会を多くもつことで、意見の言語化や他者の見方を受容する姿勢の育成を図る。

4 題材の評価規準

関心・意欲・態度	鑑賞の能力
作品の探究活動に関心を持ち、造形的なよさや美しさを感じ取ろうとする。	造形的なよさや美しさを感じ取り、自分の価値意識をもって作品を味わうことができる。

5 学習計画（1時間扱い）

時	学習活動	評価規準
1	<ul style="list-style-type: none"> ・作品に描かれている事象を探究する。 ・絵中の声や音、擬音語、場面を想像する。 ・付箋紙を相互鑑賞する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の探究活動に関心をもち、造形的なよさや美しさを感じ取ることができる。 (美術への関心意欲態度) ・造形的なよさや美しさを感じ取り、自分の価値意識をもって作品を味わうことができる。 (鑑賞の能力)

6 指導の実際

(1) 展開

学習活動・内容	支援の手だて（○は個への配慮，◎は評価） （※対話的な学びの工夫に向けた取り組み）				
<p>1 「雪中の狩人」を見て、最初に抱いた印象と、見つけたものをワークシートに記入する。</p> <p>2 本時の題材と学習内容を確認する。</p> <p>3 班に分かれ、配布された作品の拡大カラーコピーとワークシートをもとに、クイズ形式で作品に描かれている事象を分析する。 (ワークシートの内容) ・場面は狩りの前か後か ・描かれているのは一日の中のいつの時間帯か ・その他気付いた点</p> <p>4 上記の点をクラス全体で確認する。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">場面は仮の前か後か</td> <td style="width: 50%; text-align: center;">描かれている時間帯</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">後</td> <td style="text-align: center;">昼過ぎ～夕方</td> </tr> </table> <p>5 絵中の声や音、擬音語、場面を想像する。 ・絵中の人物や描かれているものが発している声や音、擬音語などを想像し、吹き出し型の付箋紙を使用して絵に貼り付ける。</p>	場面は仮の前か後か	描かれている時間帯	後	昼過ぎ～夕方	<p>・探求後の印象と比較できるよう、最初の印象を板書する。 ・作品の提示時には題名を伏せ、生徒が題名からくるイメージにとらわれないようにする。 ・生徒から出た発言に繋げて確認する。 ・何人かの生徒に気づいたことを発言してもらい、対話をしながら進める。</p> <p>・題材についての説明をする。 ○学習課題を声に出して読むことで、学習への関心・意欲を高めることができるよう支援する。</p> <p>※探求活動で出た意見に対して、なぜそのように考えることができるのかという理由も思考し、他者に伝えるよう指導する。 ※机間巡視を通して、生徒間で活発な対話活動が行われるように支援する。 ○机間巡視をしながら生徒と対話をし、より細かな所にも目が行くように促す。</p> <p>◎美術への関心・意欲・態度 B：作品の探究活動に関心をもち、造形的なよさや美しさを感じ取ろうとしている。 A：作品の探究活動に関心をもち、造形的なよさや美しさを豊かに感じ取ろうとしている。(ワークシート)</p> <p>・付箋のノルマを一人5枚に設定し、積極的な参加を促す。 ・終わってしまった生徒には追加で付箋紙を配布する。 ○人物だけではなく、動物や植物の声や音も想像できることを伝える。 ・あまりにも絵から離れた想像にならないように、探求活動で分かったことをもとに想像するよう指導する。</p> <p>◎鑑賞の能力 B：自分の価値意識をもって作品を味わっている。 A：自分の価値意識をもって豊かに作品を味わっている。 (付箋紙)</p>
場面は仮の前か後か	描かれている時間帯				
後	昼過ぎ～夕方				

<p>6 付箋紙を相互鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各班の付箋を見て回り、相互鑑賞をする。 各班の想像した場面を共有し、同じ作品から生まれる想像の音の類似点や相違点を楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> どのような分析から考え、貼った付箋であったのかを生徒に聞き、類似点や相違点が生まれた理由まで探求できるように発問する。
<p>7 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> 今回の作品探求活動を通して感じたこと、考えたことをワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> 探求活動を実践して感じたこと、考えたことを記入し、発表させることで、探求活動のおもしろさを共有する。

(2) 探究活動による視点設定の工夫

「場面は狩りの前か後か」という問いについては、ほとんどの生徒が狩りの後の場面であると解答した。その根拠として、狩人の背中が丸まっていることや猟犬の尻尾、首が垂れているように描写されていることが各班から挙げられた。生徒は細かい描写にまで着目し、状況を読み取ろうと班内で活発に意見を交流している姿が見られた。また、狩人が街の方へ向かって歩いていく構図にも着目し、場面を考える際の判断材料にしていた。

「描かれているのは一日の中のいつの時間帯か」という問いについては、朝と夕方の大きく二つの意見に分かれた。その要因として一つ挙げられるのが、空の描写の捉え方の違いである。淀んだ青緑で表現されている空を「薄暗い」と多くの生徒は捉えた。それを早朝ととるか、夕方ととるかで差がでた。朝の情景であると判断した班の意見として、「空にオレンジ味が感じられないから夕方ではない」、「獵へは早朝に行くから、朝だと思う」、「つららなどがあるから寒そう、だから朝の寒い時だと思う」というものが挙げられた。描かれているものをそのまま捉えた意見が多いことが特徴のように思う。夕方の情景であると判断した班の意見としては、「街に人がたくさんいて遊んでいる。早朝からこんなに人はいないと思うから、夕方だと思う」、「左に描かれた人たちが火を起こしている。みんなでバーベキューをするのかもしれないから、お昼すぎだと思う」といったものが挙げられた。こちらの意見には、自分自身の生活体験を描かれているものに照らし合わせて判断している意見が多いように感じた。

◎ 絵から推測してみよう！

描かれている場面は、狩りの前か後か	
(予想) 狩りの前	(理由) 荷い所が丸まってるから
描かれている時間帯は、一日の中のいつの時間帯か	
(予想) 朝	(理由) 空が青緑色

◎ 絵から推測してみよう！

描かれている場面は、狩りの前か後か	
(予想) 後	(理由) 太ったれている(尻尾が垂れている)
描かれている時間帯は、一日の中のいつの時間帯か	
(予想) 4~5時間	(理由) 狩りが始まる時間帯、たいてい朝

◎ 絵から推測してみよう！

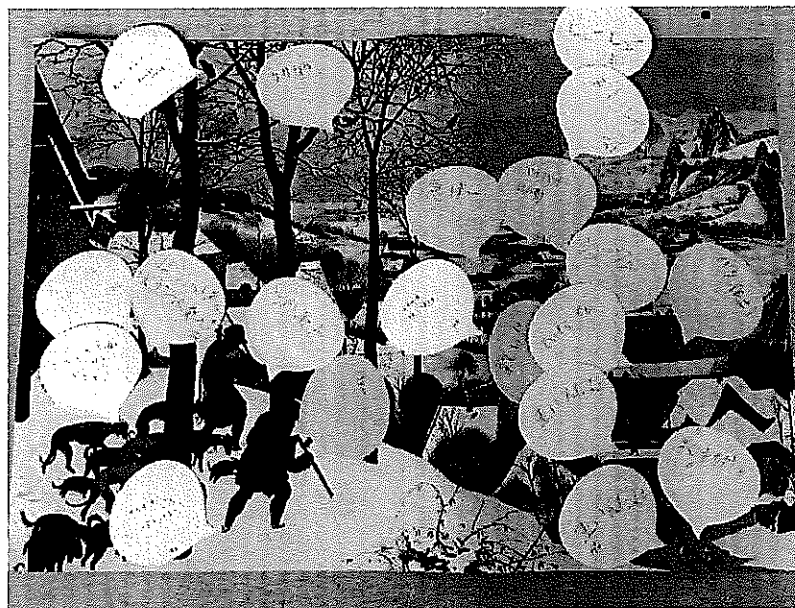
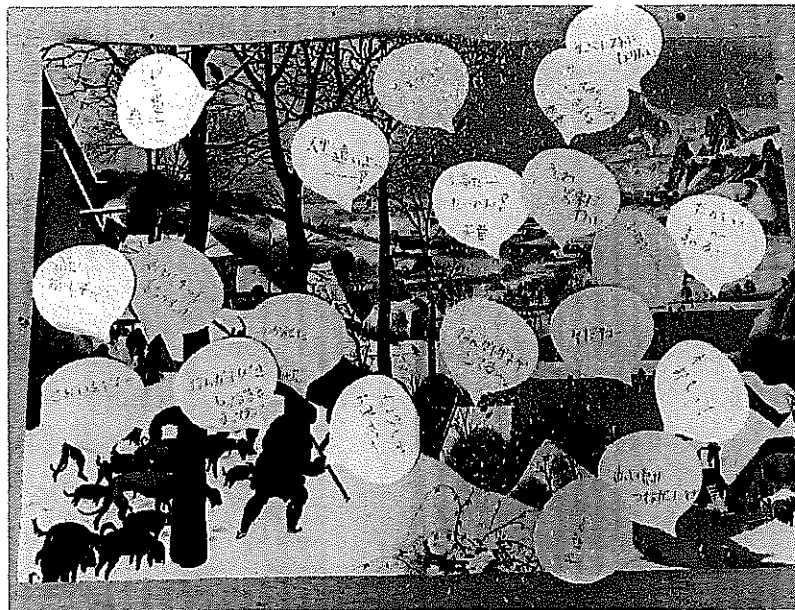
描かれている場面は、狩りの前か後か	
(予想) 後	(理由) 背が丸まってるから
描かれている時間帯は、一日の中のいつの時間帯か	
(予想) 夕~5時	(理由) 空が青緑色

◎ 絵から推測してみよう！

描かれている場面は、狩りの前か後か	
(予想) 狩りの後	(理由) 尻尾が垂れているから
描かれている時間帯は、一日の中のいつの時間帯か	
(予想) 夕方4時	(理由) 景色が暗いから

(3) 作品中の声や音, 擬音語, 場面を想像する活動の工夫

作品中の声や音, 擬音語, 場面を想像する活動では, 想像したものを吹き出し型の付箋紙に書き, 作品のカラーコピーに貼る形で行った。一番多く想像されたものは, 猟師の疲労感を表す声である。作品の主題として大きく取り上げたことが要因だと考える。他には, 授業内で紹介した「火事が起こっている家」, 「夜の開店の準備をしている飲食店」, 「豚の膀胱がもらえるのを待っている少女」に関するものが多く想像された。中には細かく描かれた町民の様子を見つけ, 声を想像したものも見られた。たくさんの意見が出るように付箋紙にノルマを設定したが, 活発に意見交換が行われていたため, ノルマが達成できずに困る生徒の様子は見られなかった。



Ⅲ 研究の成果と課題

1 成果

(1) 探究活動による視点設定の工夫

クイズの答えを探するという目的をもって探究活動に取り組んだことによって、生徒が自然に主題に注目をして鑑賞を行うことができた。探究活動前に第一印象を聞いた際には、「寒そう」などといった表面的な意見が多く挙げられたが、授業後には狩人や街の描写を踏まえた感想が多く挙げられた。クイズによって見るべき視点を設定し、提示することで、生徒たちが主体的に鑑賞活動に取り組み、より深く作品理解に努めることができたと思う。

(2) 作品中の声や音、擬音語、場面を想像する活動の工夫

作品から聞こえる声や音を想像するためには、作品から読み取ったことと自分自身が生活で得た経験とを重ねて鑑賞する必要が出てくる。この活動を通して、生徒たちはより深く作品に描かれた世界に入り込み、自分自身に近づけて作品を鑑賞することができたように思う。表面的に見るだけでなく、描かれている異国の地域の生活に関心をもって鑑賞活動に取り組む姿が見られ、意欲をもって活動できていた。

2 課題

本実践の課題として、情報の提供の仕方が挙げられる。今回はクイズによる探究活動をした後に、教師側から描かれた国の気候と文化について、猟師の生活についてなどといった情報を提供した。その結果、作品から声や音を想像する活動ではそれらのことに関するものに意見が集中した。こちらから提供をする情報の量や内容、提供の仕方に気を付けなければ、生徒の気づきに制限をかけてしまう可能性があることを実感した。今後検討していきたい。